

NPO法人慢性疾患診療支援システム研究会 第14回学術集会

ビックデータと地域医療連携

AI社会の中での地域健康福祉のありかた

日時：平成30年2月18日（日曜日）13：00～16：00

場所：山梨大学医学部小講堂 参加無料

コンピュータ技術の革新とともに第3次人工知能(AI)ブームが到来しております。特に深層学習と呼ばれるビックデータの解析法の進歩によって、日常生活においてAIは広く活用されるようになってきました。AIの医療分野への応用も急速に進んでおり、国も医療福祉へのAIの導入については明確な達成目標と期限を決めて取り組んでおります。

近い将来に、医療分野もAIの導入によって大きく変化すると考えられています。これまで本研究会では、地域における健康福祉を向上させることを目的として診療連携を進めていけば地域のビックデータの構築を行ってまいりましたが、残念ながら十分にシステムが活用されていると言える状況にはありません。その理由の1つとして、収集されたデータの意義や重要性が利用者によって異なるにもかかわらず、提示データにその点が十分に配慮されていないため、利用者が十分に活用出来ず、患者さんの福祉向上に貢献していない点が挙げられます。これに対しビックデータを基に学習したAIが地域連携の中で収集される特定の患者のデータを基に医療提供者の立場に合った情報を提供できるようになれば、地域や個々の患者に合った医療と医療者の負担軽減化にもつながると考えられます。また、これら収集される医療情報を的確に把握することにより、行政による医療福祉への取り組みを効率化し、地域医療の改善と医療費の削減につながることが期待されます。

一方、医療におけるデータ連携の課題の1つである個人情報保護については最近大きな制度上の変更がありました。これを契機に医療情報の活用は大きく変動すると思われれます。

今回は以上のような観点から、AI社会において今後どのように地域の健康福祉を進めていくかについて議論をしたいと思いますので、医療関係者の皆様はもちろん、行政の方々、情報学、IT関係者の方々のご参加をお待ちしております。

【プログラム】

- 講演1「在宅医療におけるICTの活用の現状と課題」
講師：丸茂砂百合氏（山梨県看護協会 荒川訪問看護ステーション所長）
- 講演2「人工知能の医療への応用の可能性について」
講師：豊浦正弘氏（山梨大学工学部 准教授）
- 講演3「ビックデータを活用した新しい地域医療について」
講師：柏木賢治（山梨大学医学部 准教授）
- 講演4「新しい個人情報の考え方について」
- 講演5「生涯健康管理を目指した電子お薬手帳と母子手帳の紹介」

【お申込み・お問い合わせ】

参加希望の方は事務局へ、2月9日までにメールでお申し込みください。

事務局 E-mail：info@manseisien.jp